夏が待ち遠しくなる本

梅雨明けが近づき，もう夏もすぐそこですね。今年はみなさんにとってどんな夏になるでしょうか。今回は読むとさらに夏が待ち遠しくなる本をご紹介したいと思います。

1 冊目は，はたこうしろう/作『なつのいちにち』です。

ジリジリと暑い夏のある日，男の子は大好きな虫取りに出かけるため，一人で家を出ます。緑一面に広がった田んぼの間を走り抜け，くさーい牛小屋の前も全速力。やっと森に着いた男の子は，今日こそクワガタムシを捕まえようと高い木に登りますが何度も落っこちてしまいます。果たして無事にクワガタムシは捕れたのでしょうか…。

この絵本はどのページもほぼ一行ほどの文章しかありません。厳選された文章と作者・はたさんの豊かな色使いの絵とが紙面いっぱいに広がり，読んでいると夏ならではの空気や音，男の子の息づかいまでも実際に聞こえてくるかのようです。子どもはもちろん大人も五感をすませて楽しんでいただきたい一冊です。

2 冊目は，江國香織/著『なかなか暮れない夏の夕暮れ』です。

50 歳になる主人公の稔は日がな一日，本を読んで過ごしています。稔にとっては生活の中心が読書であり，その合間に人と会ったり，道楽で始めたソフトクリーム店に顔を出したりしています。そしてこの物語の季節は夏。地面から湧き上がる熱気，草いきれ，とうもろこし，鱧，しっとりした夜気（やき），蚊取り線香…などなど，随所に夏を思わせる表現が出てきます。

またこの作品は「小説内小説」となっており，稔が顔を上げて読んでいる本から目を離すとその小説も途切れてしまいます。読者は二つの物語を同時に読んでいるかのような感覚にもなります。夏を作中で体感しつつ，不思議な世界に浸ってみてはいかがでしょうか。

3 冊目は，満留邦子/著『そうめん』です。

夏といえば食べたくなるのがそうめん。ただいつも茹でるだけになってしまい，レパートリーに困るのもこの料理ではないでしょうか。この本は基本的な作り方はもちろん，愛媛県の「鯛めん」など全国の珍しいご当地そうめんのレシピや，韓国風のたれを使った「ビビンそうめん」や「カルボナーラそうめん」など，さまざまなアレンジをした料理も掲載されています。そうめんのレパートリーが増えたら，夏を迎えるのがさらに待ち遠しくなりそうですね。

図書館には，この他にも夏を迎えるのにぴったりな本がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。